

東日本大震災 岐阜民医連支援ニュース

=ここは一つ、オール民医連で全国の仲間とともに困難を乗り越えよう!=

NO. 21

2011. 4. 15 岐阜民医連支援対策本部

第5次支援者は、本日帰任！

第5次支援の3名は、本日帰任の予定です。昨日、牛島看護師は避難所の夜の診療に同行し、夕食は10時頃だったようです。でも、全員元気に帰路についています。

被災地からの岐阜市への受け入れ状況

堀田信夫市会議員からの情報では、岐阜市の被災地からの避難者の受け入れ状況は、市営住宅68戸を被災者用に確保し、現在4世帯21人(菅生3、本郷1)を受け入れているようです。しかし、県営住宅やその他民間住宅への避難者の情報はつかめていないとのことでした。また、市営住宅の風呂の浴槽については、とりあえず市として10個確保したとのことでした。引き続き地域の情報の把握に努めていきましょう。

今までの支援者数：20名

医師：4名

看護師：3名

薬剤師：1名

理学療法士：1名

事務：5名

ケアマネ：2名

介護福祉士：2名

学生：2名

本当に大丈夫？岐阜市の防災計画・・・・

「東海大地震」に備えた安全なまちづくりを！ 選挙で投票に行こう！！

＜岐阜市の防災計画より＞

東海地震被害想定

『複合型東海地震の発生の際の地震規模はM8.3と予測され、岐阜市内の震度は5弱か6弱となりかなりの影響を受けます』

原子力災害

『最も近い原子力事業所からも約80kmの距離があり、防災指針「防災対策を重点的に実施すべき地域の範囲」の区域外で、仮に米国スリーマイルアイランドの原子力発電所の事故に相当する異常事態が発生したとしても、「防災指針」において住民の屋内避難等の措置を講じる必要があるとされる外部前進被爆線量である10msv以上に達することは推定されない』

義捐金の給与天引き4月分は締め切りました。5月以降も引き続きご協力ください！

4月分給与からの義捐金天引きは本日締め切りました。天引き予約は121人の職員から3か月合計で1,762,000円(4月分は598,000円)の予約をいただいています。5月以降も受け付けますのでまだの方は是非ご協力をお願いします。

昨日、東京の健康文化会の方から全日本民医連のホームページで岐阜の支援ニュースを見て、健康文化会でも給与天引きを取り組みたいとのことで、申込書の書式等資料の請求がありました。

今後の支援予定

4月16日(土)～4月19日(火) <佐野友の会事務局員>高速バス利用

4月18日(月)～4月23日(土) <蘭Dr予定>全日本民医連定期便利用

4月24日(日)～4月30日(土) <宇野予定、須田予定>自家用車利用



4月11日現在の義捐金集約:2,044,011円です

シリーズ震災支援報告 7 <支援隊の震災支援報告をシリーズで掲載します。>

私のグループは医師、看護師、介護士、理学療法士、薬剤師、事務と非常にバラエティに富んだチームで、結局後から入ったチームと併せると20名ほどの大所帯チームとなりました。話によると岩手への派遣チームが急遽宮城に入ることになり、全体でも200名超の支援となり、こうした配分も大雑把になってしまっていたとのこと。

着いたのは坂総合病院から歩いて20分ほどの多賀城中学校。この辺りはもちろん津波被害も無い為落ち着いた感じにも見えるが、壁がはがれた家や段差ができた道路など、やはりこの地震の規模が相当大きかったことを認識することになる。

中学校の体育館が避難所となっていた。外には目的もなくただ時間をやり過ごすしかないよう見える小学生から老人までが歩いている。外に自衛隊の物資トラックや給水車などここが避難所であることが伺えるようなものは何もなく、どちらかというと落ち着いている避難所ということになるだろう。体育館、武道館、教室と分かれている避難された方たちを、チームを分けて対応する。



写真を見てもうと、

長机にパイプ椅子の簡単な診察室が判ると思う。カルテは臨時通達で患者が特定できる情報さえあれば、どのような書き方でも保険診療扱いにしてくれるということでA4用紙を適当に患者ごとに区切って使っていた。確かに紙自体もここでは貴重品なのだ。手前は薬局ブースで、この机で簡易調剤をする。医師がカルテを見せると手持ちの薬剤で調剤するのだが、もちろん各医師が使いたい薬剤があるとは限らないので、薬の置き換えなどを相談しながら処方することになる。

患者さんは私たちが避難所

の中を歩き、声をかけ見つけてくるのが基本だ。奥ゆかしさもあるが、疲れて歩きたくもないような方がいるので、色々察知して話し続けることも大切。

避難所の日中は実は人が少ない。被害の少なったこの辺では家の片づけに帰る人や物資やガソリンを求めて町に出てゆく人が多いからだ。よって大所帯チームとしては幾分やることもなくなってくるのだが、そんな時に一人の年配のトレーナーが立ち上がった。

沈んだ空気の体育館に「体操しますよー」という声が響き渡る。

私は寝ている人も多いし、最初は怒られるんじゃないかと身構えたが、するはどうだろう寝ていた自分のブースから一人また一人と立ち上がり集まつてくるではないか。老若男女、次々と集まり写真のような輪ができると、トレーナーの号令が始まる。ただの体操じゃなく、緊張した体をほぐすような機能的な内容。いつしか参加者の額には汗が光り始める。

そして…

はじめてみた笑顔。



結構長い時間の体操が終わると参加者は口々に「気持ち良かった」と言いながら自分のブースに帰つて行った。するとこれを見ていたある職種に火が付く。

.... つづく (戸崎)